

子供の森

計画事業

事業開始から25年、世界36の国と地域の4,891校で展開 子どもたちの植林・環境保全活動を支援



スリランカ

豪雨による洪水や土砂崩れなど自然災害が増加する中、生物多様性を重視した苗木づくりや指導者向けのセミナーなどを実施。学校の自主性を引き出しながら努力を重ねている。



カンボジア

研修生OBが取り組みを推進。日本からのボランティアツアーの受け入れをきっかけに首都プノンペンでも活動が始まるなど、子どもたちの環境に対する意識を育みながら一步一步前進中。



フィリピン

事業開始国として25周年式典を開くなど、今日までの活動を振り返り、その意義を再確認。動植物や水源の回復など、豊かなふるさとを守り育む取り組みとしての成果も見られている。



モンゴル

オイスカ・モンゴル総局が10周年を迎え、「子供の森」計画の活動もより活発に。OGを2年間、日本でコーディネーターとしての研修を受けさせるなど、スタッフの能力開発にも取り組んだ。



タイ

猛暑による水不足や乾燥に悩まされながらも、郷土樹種を中心とした植林を実施。アユタヤが新たに加わるなど、対象地域を増やししながら各地のニーズや特性に合わせた活動を展開中。



フィジー

2016年には大型サイクロンにより活動地であるビチレブ島北部のラ県でも多くの被害を受けた。植林活動が防災・減災につながることを伝えながら、災害に強いふるさとづくりを目指す。



インドネシア

リサイクルや有機農業など、持続可能な未来へ向けた環境教育にも注力し、年間約1万2千人が参加。各校で継続できるよう教師向けのセミナーなどを行い、指導者育成にも取り組んでいる。



ミャンマー

水不足の一方で激しい降雨に見舞われるなど、異常気象に悩まされながらも乾燥に強い樹種を中心に植林活動を展開。ふるさとを守る意識を持ち、主体的に行動できる子どもたちを育成。

「子供の森」計画の事業開始25周年を迎えた2016年度は、活動がスタートした国であるフィリピンで記念式典を行うなど、これまでの成果を共有するとともに、今後のさらなる展開に向けて、気持ちを新たにするとともに、

各国各地域では植林・管理活動を中心とした森づくりを継続しながら、自然がもたらすさまざまな恩恵について伝えながら環境教育を実施。また、地域の自立した活動を促すため、地域住民対象のセミナーの開催や教員などの指導者層の育成にも注力しました。

フィジーやスリランカなど、活動地でも自然災害による被害が起きる中、地域を巻き込みながら防災・減災につながる植林への意識啓発を促進することができました。加えて国連生物多様性条約事務局が呼びかけているグリーンウェイブ活動には、10カ国362の団体、約9600人が参加するなど、生物多様性保全に対する取り組みも広がっています。

16年は「国連持続可能な開発目標（SDGs）」のスタート年でもあったことから、世界各国の子どもたちの取り組みをSDGsへ向けた具体的事例として再定義して発信するとともに、日本の子どもたちに対しても、国際理解および環境教育の機会を提供しました。



苗木の植え方や管理についても学ぶ
(パプアニューギニア)

2016年度
植林実績 15万2479本
(面積) 116.34 ha

未来につながる森づくり
長年活動に取り組んでいる地域では、子どもたちと共に苗木が森へと育ち、心地よい環境をもたらすよう、郷土樹種や栄養源になる果樹などの植林・管理を中心とした森づくりを継続。また苗木づくりなどにも取り組むなど、活動が持続的なものになるよう、自助努力を重ねています。

2016年度 主な活動

「子供の森」計画URL
<http://www.kodomo-mori.info>



生ごみを活用してつくったたい肥でミニ菜園に取り組む(インドネシア)

主役はいつでも子どもたち
子どもたちの主体性を引き出しながら、ゴミの分別やリサイクル、有機農業など、自然との共生を目指した実践的な学びの機会を提供。また、環境をテーマにしたポスターづくりや詩の朗読など子どもたち自身がさまざまな活動を通じて、社会にメッセージを発信する取り組みにも力を入れました。



コーディネーター研修にはインドネシアから代表生徒も加わり、フィリピンの子どもたちに自国の取り組みを紹介(フィリピン・ヌエバビスカヤ州)

スキルアップと連携促進
経験や成果を共有しながら、共に学び連携し合ったため、複数の学校の子どもたちを対象としたワークショップや指導者対象のセミナーの開催に力を入れました。8月には、フィリピンにおいてコーディネーターの研修を行い、3カ国から集まったコーディネーターが国を超えて学び合いました。



互いに学び合う場を



互いに学び合う場を
6カ国から代表児童生徒など計23名を3回に分けて親善大使として日本へ招聘、9都道府県において環境保全やSDGsをテーマにした交流活動を実施。親善大使は、帰国後に日本での体験を仲間たちに伝えるとともに、率先してゴミの分別やリサイクルなどの活動を始めるなど、学びを行動へと発展させています。



島国であるインドネシアとフィジーの親善大使は沖縄を訪問。「島」という共通点から、互いをより深く理解し合いながら交流を深め、環境保全活動について意見交換を行った(沖縄県久米島町)



2016年度「子供の森」計画 植林実績(世界36の国と地域の4,891校で実施)

国名	2016年度		1991年～累積		参加校数総計	2016年度新規校数
	植林本数	植林面積(ha)	累計本数	累計面積(ha)		
バングラデシュ	1,400	1.40	81,974	67.02	226	2
中国(内モンゴル)	55,800	13.00	89,110	30.10	14	1
カンボジア	910	1.45	4,970	8.23	20	4
フィジー	2,858	2.51	783,149	571.08	61	2
インド	21,358	59.30	1,726,444	1,183.61	1,954	2
インドネシア	34,808	21.36	340,569	482.63	371	6
マレーシア	1,265	0.32	89,090	79.95	220	1
ミャンマー	553	0.14	28,140	12.86	68	1
フィリピン	18,352	4.82	2,808,713	1,057.26	1,087	10
パプアニューギニア	950	0.60	77,800	49.58	69	6
スリランカ	1,507	1.21	510,471	427.60	330	10
タイ	6,631	7.98	598,626	409.52	205	5
その他の国・地域※	6,087	2.25	130,438	102.73	266	7
合計	152,479	116.34	7,269,494	4,482.17	4,891	57

※上記データは2017年3月末時点のものです。参加校数は、新規植林実績のある学校に加え、これまで「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値となります

※その他の国・地域:アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、アラブ首長国連邦、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム

2016年度 収支報告

経常収益	
寄附金 「子供の森」計画支援金(5,774口)、 寄附金、募金等	36,349,114円
助成金 (一)地球産業文化研究所、 (公)国土緑化推進機構等	15,437,812円
その他 受取負担金、特定資産運用益、 雑収入等	4,762,951円
合計	56,549,877円
経常費用	
事業費	57,071,976円
合計	57,071,976円